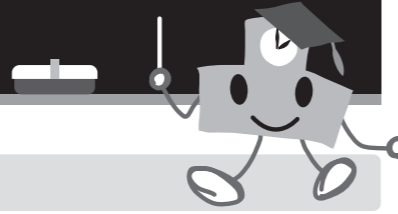


小学校の事例 豊平区 旭小学校

児童会を中心に資源物収集に取り組む。新たな取組も中学校に協力することで活動へのさらなる意欲に。

長年取組んできたリングプル収集が形に。6年生の意志を受け継ぎ、近年始めたペットボトルキャップ回収は、地域の中学校と連携した取組へと発展。



はじまり 「ぜひ続けてほしい」を継承

平成21年度の6年生がペットボトルキャップを収集することで、ワクチンになり世界の子供たちに届けられることを、総合的な学習の時間に調べ、運動会で全校生徒に回収の協力を呼びかけたことがきっかけ。「ぜひ続けてほしい」という6年生の気持ちを受け継ぎ、今年度から代表委員会を主体とした取組として開始した。



集まったペットボトルキャップを全校集会で紹介

内容 中学校と連携した取組を開始 リングプルは念願の車いすへ交換

資源物収集活動は校内に回収箱を設置し、1年をとおりして日常的に行っている。PTAや老人クラブなど地域の方々もとても協力的で、たくさん回収できている。

ペットボトルキャップ収集は取組み始めたばかりの活動である。本校の児童も進学する八条中学校がTSS（豊平区生徒会サミット）で先に取組んでいたこともあり、連携して取組むこととなった。

リングプルの収集活動は、児童会書記局が主体となっており、長年続いている活動である。リングプル再生ネットワークに登録しており、平成20年には660kgに達し、車椅子と交換することができた。冬の児童集会で贈呈セレモニーを行い、介護老人保健施設へ寄贈。また、子どもまつりなどでは、リングプルをお金に見立てて利用し、ゲームやクイズをしている。



こんなに集めたよ！リングプル

発展 芝草から堆肥へ 花壇や教材園へのリサイクル

本校では、少しめずらしい芝草のリサイクルにも取り組んでいる。きっかけは、北大の先生が旭水町内会におり、「*旭地域フォーラム」に参加して情報交流し、先生が会長として主催している芝草研究会のイベントに用務員が参加したこと。そこで札幌市下水道資源公社の方が、芝草を利用した堆肥づくりについて発表をしており、当校でも芝草を活用した取組ができなかと考え、コンポストを分けてもらうことができたことで、芝草の堆肥づくりが始まった。

*「旭地域フォーラム」とは、年に1度、学校関係者や保護者、地域の方を対象に、地域と連携した当校の教育活動について説明し、話し合う交流の場である。

札幌市下水道資源公社から「札幌コンポスト」という下水処理の過程で出る沈殿物から作られた肥料をもらい、芝草と混ぜて醗酵させることにより、今までごみとして有料で捨てていたものが、「堆肥」として生まれ変わっている。できあがった堆肥は、春に各学年の花壇や教材園に植物を植える際に使用している。

堆肥作りは校地内の「旭の森」で行われており、子供たちは総合的な学習の時間での観察活動を行う際などで見ることができる。堆肥になる過程を知り、実際に使うことで、リサイクルへの意識が高まっている。



花に囲まれた校舎



旭の森

広げよう
つなげよう
環境学習の輪



実施校から
メッセージ

本校では毎年、3学期のスキー学習のためにグラウンドに雪山を作っていますが、最近では温暖化の影響もあり、降雪不足に悩まされるようになってきました。そこで4年前から、学校隣のタクシー会社や葬儀場の駐車場に積もっている雪を、本校のグラウンドに運んでいただいています。企業の方には「すぐ隣だと排雪時間が短縮でき、とても助かる」と喜ばれており、「見方を変えると味方になる」ということを実感しました。このような発想の転換を環境教育にも生かし、効率的に取り組んでいきたいと思っています。